

土曜 ライフ・楽しむ

外出自粛「不撓不屈」の精神で

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



など感心したものです。

もう半世紀も前のことですが。ある夏休み、学生の身分ではふるさとの大阪へ帰省するのは費用もかかり無理なので、下宿で無聊をかこつことにしていました。それを見かねてオホーツク沿岸の雄武町出身の友人が自分の帰省に誘ってくれました。知らない街でもあり、大喜びで連れて行ってもらうことにしました。

古い話で記憶があいまいですが、札幌から北に向かい、興部駅を経由して雄武駅に到着しました。町の名は「おむむ」なのに、駅名が「おむ」なのは笑いました。途中のある駅で「しばらく停車する」という車内放送が聞こえたので、ホームに出てのんびりしていたら急に列車が動き出しました。切符も手荷物も車内に置いたまま。驚いてホームを走り、大声を出して列車を追いかけると、しばらくして列車は停止しこちらに戻ってきます。慌てて乗り込み恥ずかしかったのですが、「すみません」と大声でわびました。友人やほかの乗客は皆ゲラゲラ笑っていました。

これは転線とか入れ替えと言ったのでしょうか。なぜこうなったのか、またこの駅がどこだったのか不明で、雄武町とJR北海道に尋ねましたが、なにせ古い話ではつきりせず謎のままです。難読地名に興味を持ったのもこの時です。友人の実家では真夏とい

うのにストープに火が入っていてこれにも驚きました。



最近では新型コロナウイルスの影響で「不要不急」の外出自粛が叫ばれますが、これはいかにも「不要不急」の旅。何も気にせずのんびりできた時代の思い出です。

その後、縁あって佐賀県の武雄市の市長を札幌に迎えたことがあります。武雄市と雄武町が同じ漢字を逆に使っていることから姉妹都市となっていて交流をしているそうで、これから雄武町に行くとのことでした。面白い縁に気付いた方は、なかなかセンスがある

それにしてもウイルスの猛威は衰える様子が見えませんが。北海道は少し落ち着いているようにも思えますが、東京のことなどを見聞きするといつ第2波が起ころうとも不思議ではないですね。

危険な現場において「不眠不休」に従事する医療関係の皆さんには感謝の念しかありません。外出自粛の要請に「不平不満」を言わず、「不撓不屈」の精神で乗り切ろうではありませんか。

「不要不急」は、重要でもなく、急ぐ必要もないという意味です。「不要不急」を薬しめることはなんと幸せなことでしょうか。早く終息してこのような旅や買い物ができる平穏な日が戻ることを願ってやみません。